

ESD アクションワークショップ

参加型都市リスク管理にむけて

1. 背景

災害は、自然・人災に関わらず、人的被害に止まらず、環境にも大きな影響を与えています。環境状態の良し悪しが災害の被害の大小に影響を与えることもあれば、逆に災害が環境に影響を与えることもあります。森林破壊や現行の森林管理、農業システムは台風、土砂崩れ、洪水、シルト（沈泥）土壌、水質汚染など環境にとってネガティブな影響を助長している原因になっています。これは2004年のハリケーンによるハイチやフィリピンでの悲劇からも明らかです。私たちは最近になってようやく環境と防災の因果関係や相互作用について理解し始めるようになりました。そして自然資源を適切に管理していくことは次世代の人々が持続可能な形で生活できるようにすることを約束するだけでなく、現代生きている人々がさらされている自然災害や人災のリスクを軽減する役割も果たしているということに気づき始めました。防災の中に適切な環境管理の視点を取り入れ、その中心に据えることはUNEPが近年特に力をいれて提唱しています。

近年都市化が急激に進んでおり、それに伴い大気や水質の悪化、交通渋滞や騒音、不適切な建築物の増加、温室効果ガス排出、廃棄物等々様々な環境問題が噴出しています。特に開発途上国では住環境に関連する問題が深刻ですが、多くは環境問題や都市貧困問題に対応することなく不適切な開発計画が進行したために問題が生じています。これらの都市問題に対応するために、開発支援団体は様々な取り組みを行っていますが、残念ながら持続可能な環境に焦点をあてたものはあまりありません。環境、経済、社会の3つの持続可能性という言葉が開発分野において非常によく使われているにもかかわらずです。都市の環境問題は様々な要因が相関関係にあり非常に複雑です。このことが環境問題の優先順位を低くしている要因のひとつでもあります。

開発途上国では災害が経済、社会開発の大きな妨げの原因になります。都市部では特に極端な事象に対して非常に脆弱で、これは構造的貧困、低水準で整備されていないインフラ、高い人口密度、経済アセットの集中、商業・工業活動等の要素が組み合わさって問題を大きくしていると考えられます。

2. 日程表

日付	スケジュール	会場
第 1 日目 7 月 23 日 (日曜日)	参加者京都到着	
第 2 日目 7 月 24 日 (月曜日)	8:30 - 9:00 受付 9:00-10:00 オープニングセッション 歓迎の挨拶: 京都大学大学院地球環境学堂長 嘉門雅史 開会の挨拶: ACCU 理事 飯田 和郎 挨拶: UNEP-IETC 企画官 ハリ スリニバス 参加者自己紹介 10:00-10:30 休憩 10:30-12:30 基調講演 都市災害: 京都大学防災研究所教授 岡田憲夫 都市環境: 京都大学大学院地球環境学堂教授 植田和弘 12:30-14:00 昼食 14:00-17:30 ビデオ会議 18:00 レセプション	京都大学大学院地球環境学堂会議室 京大メディアセンター
第 3 日目 7 月 25 日 (火曜日)	9:00-10:30 モジュール 1: リスクアセスメント: 応用インターナショナル 金子史夫 10:30-11:00 休憩 11:00-12:30 モジュール 2: 行動計画づくり: CDP ローナ・ビクトリア 12:30-14:00 昼食 14:00-18:00 グループ討議 日本からの発表: 豊岡市: 20 分 海外からの発表: ネパール: 20 分 討議: 20 分 分科会: 2 時間 (行政、NGO、コミュニティの 3 グループ) プレナリー討議: 1 時間	京都大学大学院地球環境学堂会議室
第 4 日目 7 月 26 日 (水曜日)	西宮へのフィールドトリップ	西宮市
第 5 日目 7 月 27 日 (木曜日)	9:00-10:30 モジュール 3: 政策決定: UNEP ハリ・スリニバス 10:30-11:00 休憩 11:00-12:30 モジュール 4: インブルメンテーション管理: JICA 大井英臣 12:30-14:00 昼食 14:00-18:00 グループ討議 日本からの発表: 北九州市: 20 分 海外からの発表: バングラディッシュ: 20 分 討議: 20 分 分科会: 2 時間 (行政、NGO、コミュニティの 3 グループ) プレナリー討議: 1 時間	京都大学大学院地球環境学堂会議室

日付	スケジュール	会場
第 6 日目 7 月 28 日 (金曜日)	9:00-10:30 モジュール 5: 持続可能な開発のための教育 : 京都大学大学院地球環境学堂 ラジブ・ショウ 10:30-11:00 休憩 11:00-12:30 モジュール 6: 情報およびコミュニケーション管理 : SEEDS マヌ・グプタ 12:30-14:00 昼食 14:00-18:00 グループ討議 日本からの発表 : 西条市 : 20 分 海外からの発表 : タイ : 20 分 討議 : 20 分 分科会 : 2 時間 (行政、NGO、コミュニティの 3 グループ) プレナリー討議 : 1 時間	京都大学大学院地球 環境学堂会議室
第 7 日目 7 月 29 日 (土曜日)	9:00-12:00 今後のフォローアップ活動について討議 ワークショップコース評価 12:00-13:00 昼食 13:00-17:00 国際シンポジウム「住みたい町のリスク学」	京都大学大学院地球 環境学堂会議室 京都大学芝蘭会館
第 8 日目 7 月 30 日 (日曜日)	参加者京都出発	

3. 参加者について

本ワークショップの参加者は様々な経歴の持ち主ですが、それぞれ属している組織から、主に次の4つのカテゴリーの方たちの集まりといえます。

- 地方自治体・地方政府の最高行政官および職員
(日本: 9, スリランカ: 1, マレーシア: 1, インドネシア: 1, ベトナム: 1)
- 学識経験者(大学や研究所職員)
(バングラディッシュ: 1, ネパール: 1, 日本: 10),
- NGOおよびコンサルタント会社職員
(インド: 2, フィリピン: 1, タイ: 1, ベトナム: 2, 日本: 3)
- 国際機関および財団法人職員(JICA: 3, UNEP: 1, ACCU: 1)

全参加者数は約40人です。

4. 期待される成果

本ワークショップからの期待される成果は、トレーニングプログラムで取り上げている6つのモジュールに焦点をあてた都市リスクのためのトレーニングモジュールです。このトレーニングモジュールには、モジュールの説明、事例研究、討論結果が含まれます。

長期的な期待される成果は、本ワークショップの参加者が、本ワークショップ後それぞれの市に戻り、本トレーニングで受けた知識を実際の活動に結び付けてくれることです。このことが本ワークショップの一番重要な成果となるため、ワークショップ最終日にはワークショップ評価と今後の活動について討論をします。